

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	2875200897		
法人名	医療法人社団 白眉会		
事業所名	エルダープレジグループホーム		
所在地	神戸市西区櫛谷町福谷882番 (電話) 078-996-3000		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット 川西		
所在地	〒666-0016 川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	2008年8月21日

【情報提供票より】(H20年 5月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10人, 非常勤 5人, 常勤換算	12.5人

(2) 建物概要

建物構造	耐火構造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	157 円	昼食 283 円
	夕食	283 円	おやつ 実費 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(5月22日現在)

	18名	男性 1名	女性 17名
要介護1	3名	要介護2	8名
要介護3	3名	要介護4	4名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 83.4歳	最低 74歳	最高 99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤クリニック、佐野伊川谷病院、榎林歯科
---------	----------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・事業所では利用者の思いの把握に努め、医療機関との連携をスムーズにし、安心して楽しく生活できるホームを目指している。ホームの共有スペースはゆったりと開放感があり、リビングから畑に出て野菜作りができる等居心地よく過ごせる工夫がされている。まだ顔なじみの関係には至っていないが、地元の人々との交流を密にするため外出を心がけている。事業所の住所が生活圏と異なり地域密着の関係が作りにくい点について、市や地域包括と相談して取り組んでいただきたい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ・地域との関わりを密にするため外出を心がけている。利用者は以前より外に出る機会が増えた。排泄や入浴等の把握を職員が行う書式を作り、利用者の羞恥心に配慮し、職員同士が言葉で確認しなくても済むよう工夫している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) ・自己評価は常勤職員で行った。評価を通して個々の職員の視点の違いや共通点が見えたり、地域との関わり大切さが再認識された。散歩時の地域の人との交流や馴染みの店の協力にも積極的に取り組んで欲しい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連事項項目第三者4,5,6) ・ホームの近況や事故の報告、行政より指導をうけた内容等報告している。地域の住民から後期高齢者医療制度や認知症についての質問や相談、家族から畑の手伝いの申し出がある等双方向の交流が図れるようになった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ・ホームの行事案内や利用者の暮らしぶりを家族等に送付し、来訪時には面談で利用者の現状、ケアプランの説明、家族等の要望を聞いている。年2回家族会を開き家族間の交流を図っている。家族からの要望を代表者がまとめて事業所と話し合い、家族意見の反映に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ・併設の老健と合同で夏祭りやログハウスでの喫茶を行うが、地域住民の参加は少ない。幼児の集いのさそいへの参加や地域行事、フリーマーケット等へも出かけたたいと事業所では考えている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・利用者主体の個々の生活を支援する理念に平成19年から「地域や生活の中に自分の居場所があります」の文言を付け加え地域密着の理念をつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員は入職時に理念を学び、ミーティングで再確認している。ケアの判断に迷ったときは理念に戻り、利用者に尋ねる。主体はあくまで利用者であることに立ちかえっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・併設の老健と合同で夏祭りやログハウスでの喫茶を行うが、地域住民の参加はない。自治会には加入していません、公園で挨拶程度の付き合いをしている。		・幼児の集いのさそいへの参加や地域の行事、フリーマーケット等へも出かけたいと事業所では考えている。早急に行われることを望みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・常勤職員で自己評価を行った。評価を通して、個々の職員によって視点の違いもあるが、迷ったとき利用者に聞くことは共通していた。以前に比べ、散歩時に声かけしてもらうことが多くなったし、馴染みの店で協力してもらえるようになったがもっと地域とのかわりを持ちたいと思っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・2ヶ月に1度行っている。事業所からホームの現状説明を行う。地域からの相談や質問（後期高齢者医療制度について等）に答えている。家族から畑の手伝いの提案がある等双方向の話し合いができるようになった。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・事業所の住所が飛び地になっているため、地域密着の関係作りができにくく、地域包括・自治会を変更する相談をしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・家族等は毎月の利用料を来訪して支払っている。その折、利用者の現状やケアプランの説明、家族等の要望や相談にのっている。毎月の行事は送付、利用者の日常生活については季刊誌を発行して紹介している。機関紙を地域へ配布してグループホームの理解につなげることを検討中。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・年2回家族会を開き家族間の交流を図っている。家族からの要望は代表者がまとめて提出し、事業所で話し合っ家族へ報告する等意見の反映に努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・離職に対しては利用者に影響がないようにしたいが、引継ぎもできないことがある。</p>		<p>・利用者へのダメージを考えて、引継ぎができなければ、他の職員がカバーする等管理者をはじめ職員の連携による利用者支援が望まれる。</p>


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修は情報を提供して、パート職員も含め希望者は参加できる。出席後次のミーティングで報告している。虐待防止や身体拘束、ケアプラン作成等の内部研修もミーティング時や業務終了後行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地区のグループホーム連絡会に出席して、情報交換を行っている。他のグループホームからの見学もあり、交流が行われている。		・職員同士の交流が活発に行える環境を作りたいと事業所は考慮中であるが、是非実現していただきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用開始前に本人、家族に出来るだけ来訪してもらい、安心して利用につなげるように声かけしている。本人、家族から生活歴を聞き、環境の変化に配慮することを心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・野菜作り、編み物、調理等利用者から教わることが多い。利用者は洗いものやりピングの掃除機かけを職員と一緒に言い、職員への協力を行動で示している。利用者同士も支え合って生活している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・希望や意向は一人ひとりアセスメントや日常生活の中で何かのきっかけで出てくる言葉から把握に努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・利用者の個々の困難への対応や希望への具体的実現について、併設の老健の職員のSVを受けたり、家族の意見も参考に担当者は管理者、他の職員と検討して、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・3ヶ月に一回の定期見直しと、状況変化に応じた随時見直しを行っている。カルテへの書き込みや気づいたときその場で書ける「ケアプラン案」シートを見直しの材料として職員間で話し合い、現状に即した見直しができるよう工夫している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・短期利用共同生活介護の指定は受けているが、提供はしていない。ホームとしては利用者家族の状況にできるだけ添う支援に努めている。地域で認知症の理解や啓発に向けた学習会等の必要性を感じている。</p>		<p>・利用者の心身状態の変化や本人、家族の希望にあった支援体制の工夫がさらに求められる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・利用者及び家族のかかりつけ医を再優先にしている。主治医の受診を選択された場合は、定期的に往診してもらっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・現在該当者がいるため主治医とは24時間対応可能である。家族との話し合いで、意向の確認を行っている。職員も主治医との連携を密に図り、職員間の共有に努めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・個々の特性を配慮し、できるだけ気持ちをあわしやしやすい声かけに努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・職員体制の制約を乗り越えて、できるだけ利用者の意向に応えるよう努力している。散歩や買い物など利用者の希望に添った外出機会を増やしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・併設老健の厨房より食事は運んでいるが、材料の提供を受けホームで利用者と一緒に調理することもある。日曜日の昼食は献立作りから調理まで一貫して協力している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は毎日昼間の時間帯で、一人ひとりの希望を優先している。入浴が困難になってきている人には、声かけに気をつけたり時間をずらすなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・調理や洗い物の当番制、洗濯物たたみなどできる役割は決まっている。男性利用者で、毎日の食材運搬をしている人もいる。季節の行事に関する手作業も取り入れている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・散歩や買い物など外出の機会は多くある。習慣的に外出される人だけではなく、個別の声かけで外出のきっかけを促す配慮もしているが、さらに積極化したいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は原則施錠していない。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回の避難訓練を利用者とともに日中行っている。3年に1回ではあるが夜間想定も実施している。</p>		<p>・近隣の協力体制づくりへの検討が望まれる。</p>
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・体調の変化等必要な人には、水分摂取量や食事量のチェックは記録している。飲食の進まない人には、本人の好きな物を好きな時に摂取してもらうよう配慮している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・玄関回り、共用スペースには常時花が飾られている。廊下にはたたみコーナーやベンチ、リビングにもゆったりしたソファが置かれ、思い思いに過ごせる居場所が確保されている。リビングからは畑に出られ野菜づくりが楽しめる。中庭からの採光により常時明るく感じられる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居室にはベランダがあり開放的である。その人の生き方や好きなことが分かる家具や日用品が居心地よく配置されている。</p>		

 は、重点項目。